

神経心理検査  
(Neuropsychiatric Inventory)  
の導入及び実施  
第 1.0 版

- 1. 目的
- 本手順書は、Neuropsychiatric Inventory（以下、NPI）を施行するに当たり、本検査が適切に施行されるよう、その標準的な手順を示すものである。
  
- 2. 適用範囲
- 認知症で行動・心理症状 Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia（以下、BPSD）を有する者（以下、対象者）の介護者（以下、情報提供者）。
  
- 3. NPI の概要
- (1)背景
- NPI は認知症患者（以下、対象者）における BPSD に関する情報を得ることを目的として 1994 年に Cummings らによって開発された。NPI のオリジナル版は「妄想」、「幻覚」、「興奮」、「うつ」、「不安」、「多幸」、「無関心」、「脱抑制」、「易怒性」、「異常行動」の 10 項目からなり、その後、1998 年「夜間行動」、「食行動」の 2 項目を加え、さらに、各精神症状項目の情報提供者に与える負担度の程度の評価が加えられた。
- NPI の 12 項目版はこれらの項目の BPSD に対して、日頃、情報提供者が介護を行っている対象者について、情報提供者に面接を行い、評価を行う半構造化面接による検査法である。
  
- (2)概要
- NPI の 12 の下位項目には、主要な症状を反映している検査の質問が用意されている。情報提供者は各項目の質問に対し、最初に「なし」か「あり」または「適応なし」かの回答を行う。もし、質問の内容が「なし」もしくは「適応なし」であれば、次の質問に進み、もし、「あり」であれば、該当する症状の頻度を 1 - 4 の 4 段階で、その重症度を 1 - 3 の 3 段階でそれぞれ評価する。「夜間行動」と「食行動」については NPI 得点には通常含まれず、全てのプロトコルに含める必要はない。したがって、点数は「夜間行動」と「食行動」以外の 10 項目の頻度と重症度の積の合計で評価され、総点は 120 点となっている。また、別途、負担度は 0 - 5 の 6 段階でそれぞれ評価する。
  
- 4. 導入実施手順
- (1)対象
- NPI は可能な限り日常的に対象者と一緒に暮らしている人など、対象者の情報に精通した情報提供者に実施することを基本とする。情報に精通した人がいない場合、NPI を実施することは極めて難しい。
  
- (2) 施行時間
- 15～20 分程度。
  
- (3)実施と採点
- 別紙 1、2 を参照する。

・ 5. 作成・改訂の履歴

版数	日付	作成/改訂	改訂理由	作成/改訂者

\*別紙をご覧になりたい方は認知症臨床研究・治験ネットワーク事務局 (Email:crndinfo@negg.go.jp) までご連絡下さい。